

教育
相談室

カウンセラーの窓から

一年間の中で最も心が揺れ動き、新しい学年の始まりにも漸く慣れたある日、子どもたちは、それぞれ見覚えのある封筒をカウンセラーから受け取りました。中には「自分に宛てた手紙」が入っていました。それは、まだ名残雪のちらつく二月に、「ころの授業」で書いたものです。一ヶ月後には新しい環境にいる自分を励ます肯定的なメッセージでした。

順（仮名）君はこんな事を書いています。
元氣ですか？五年生になって新しい友だちと遊んでいますか？勉強は分かりますか？宿題はちゃんとしますか？できないこともこつこつがんばってください。そしたらきっとできるようになります。やんちゃだけど、なんとなく周りの意見に流されてしまうことが多い順君。真剣に考えないといけないときに、わざとふざ

小さなタイムカプセルの中身は？

けてごまかしてしまうこともありました。手紙を読み、「今の自分はまだできていなくて恥ずかしい。一つだけでもかなえたい。」と言いました。

ある時期に、友だち関係で悩んでいた香（仮名）さんは、こんなふうに書きました。

新しい友だちつくれたよね！五年生の勉強むずかしいけど、大丈夫だよ。私も応援しているから！見守っているからね！

四年生の終わり頃はちょっと不安だった香さんでしたが、五年生になり、自分から友だちのところに行けるようになって、少し成長したなと感じています。

「このごろ学校のことを聞いても話してくれないので、聞いて詰めてしまいました。友だちとうまくいっていないのでしょうか？」

新学期をむかえると、そんな

保護者の心配がカウンセラーに寄せられることがあります。クラス替えがあり担任の先生も変わるといった、それまでとは違う環境に置かれた我が子に、落ち込んでいる様子が見えると親は心配です。しかし、相談を進めていくうちに、「失敗して辛い思いをするとかわいそうだと過度に心配し、子ども本来の力を尊重し信じるという気持ちが必要なかった。」と気づかれる保護者は少なくありません。不安もあるけれども希望もあると思えることを、子どもたちは日々の関わり合いの中で学んでいきます。

後で香さんは、「四年生の時に書いたと思うと小さなタイムカプセルみたいで、なんだか嬉しくなりました。元気がなくなつた時にまた読みたいと思います。」と感想を寄せました。

T・S

はくみ

家庭教育を考えるシリーズ

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

40号

子どもは 社会の宝です



特選「妹がおはなしたよ!!」 田辺真奈美さん（下河端町）



入選「どうやって作るのかな」 青木富美子さん（川島町）

第2回家族のふれあい写真 コンテスト入賞作品より



入選「西山公園にてスポーツの秋」 齋藤正美さん（小黒町2丁目）



入選「4姉妹列車しゅっぱーつ」 千葉 恵さん（下河端町）

青少年健全育成 鯖江市民大会

明日を担う青少年 守り育てよう
平成23年

日時 **9月4日(日)**
12時45分～

会場 **鯖江市郷陽会館**
桜町2丁目7-1 TEL 52-5789

- 日程
- 12:30 受付
 - 12:45 オープニングセレモニー
【鯖江人形浄瑠璃 近松座】
 - 13:15 開会式
 - 13:30 実践活動報告
 - 14:00 講演会
【講師】 和田周平先生
和田教育研究所長・ことばの美術館副館長・福井県「親学」講師
【演題】「食卓を笑顔で囲む明るい家庭
—家庭は意識して作る時代—」
 - 15:30 閉会式

託児あります。当日受付で申込みください。

【主催】青少年健全育成鯖江市民会議
【問合せ】鯖江市教育委員会生涯学習課 TEL 53-2256(直通)

東日本大震災以来「家族の絆 地域のつながりそして、子どもは地域の宝」を強く感じさせられました。子育ては、地域の宝である子どもたちを、リッパな大人そして、親にすることではないでしょうか。もう一度、この子育てという大変ですが、すばらしい仕事について、考えていきたいものです。

子どもが育つ環境を整えよう

涓滴

子どもは 授かりものであり 預かりもの

三月十一日の東日本大震災。それは、自然のすごさを再認識させられた日となりました。これまで累々と積み重ねてきた文明を、あっさりとはひっくり返して見せたからです。映像を通して目にする光景に仰天し、人智の脆さを実感されたと思います。中には居ても立ってもいられない思いで、東北に向われた方もおられたのではないのでしょうか。また、亡くなられた方々の無念さや避難生活を余儀なくされておられる方々の御苦労を思うと、胸が締め付けられます。四ヶ月経ったいま、そんな被災地に希望の灯が見えはじめました。それは元気な子どもたちの姿からです。給水車の前に続く行列の中に、行儀よく並ぶ子どもたち。避難所で暮すお年寄りに「肩もみボランティア」をする子どもたち。間借り校舎で勉強する子どもたち。救援に来て下さった人々の車列に大きな声で「ありがとう」と手を振る子どもたち。家を失い、家族を失い、平穏な暮らしを失った子どもたちもいっぱい居るに違いありません。でも、子どもたちは明るい笑顔を忘れていませんでした。多くの被災者や救援にいられた人々は、この笑顔にどれだけ励まされ勇気づけられたことでしょうか。

「子どもは授かりもの」という言い方をします。新しい命が宿ったことを知ったとき私たちは、生命の神秘に感動し、懸命に育てます。それを指しているのでしょうか。しかし、その育てた子から、多くの希望と、勇気を与えられるときがあるのです。

子どもは、我が子であると同時に我々社会の子という存在でもあります。震災はそのことを見せてくれました。すなわち子どもは、将来の人類のために遣わされた未来からの預かりもの」ということ、「こういう認識を持つことが大切ではないか」ということです。そうであれば、目先の行いに「喜」「憂」する子育てだけではなく、未来の世界を見据え、逞しく賢く育てるという視野の広い育て方が大切になるでしょう。

これが、私たち大人に課せられた子育ての役割だと考えます。

震災は多くのことを教えてくれたように思います。

「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となる。この願いを込めて。



©fumira

子どもの抱えきれない保護者

子どもの問題を抱えきれない保護者の方に「お母さんのせいじゃないか」と尋ねたところ、「お母さんなんじゃない」という返事が返ってきたところでした。それ、子どもの様子を見つめ、それを気がさせるようアドバイスをしました。そうしたら、子どもの問題は少しずつ消えていったところでした。

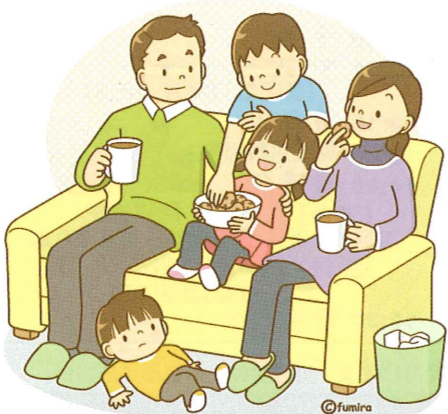
子どものよき人間を探したいは、子ども自身を愛するということになります。親子をみる見方も変わっていくのです。

「聞いて聞いて」を大切に

子どもたちの言葉の中に「聞いて聞いて、お母さん」という言葉があります。忙しいときには「後でね」と言いたくなりますが、本当に聞いてほしいときのタイミングは逃してはならないのです。子どもは、話の内容もわからないながらも、まずは聞いたまま、お母さん受けとめてくれるメッセージを出しているのではありませんか。まずは受けとめたいのです。それを受けとめたいのです。それで子どもは安心すると思います。

子どもの言葉に、もう一度耳を傾けてみたいですね。

子どもの姿のモデルは大人

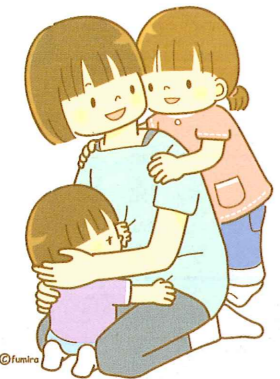


©fumira

子どもが生活の仕方やしき方のモデルとなっているのは、目の前にいる親です。そして大人です。やさしい家族の姿を見ている子どもは、やさしく育ちます。

家族のつながりや絆を大切にしている、自然に「いい」気持ちの方が伝わります。

大人がよいモデルを示す事は、子どもの成長に深くかかわっているのです。子どもの姿は、まるで親や大人たちを映す鏡のようだと言った人があります。



©fumira